

水車場外観



石積み排水路

水車場

～紹介～



KK

●小麦製粉用石臼など

小麦用と、米・豆等の製粉用の2種類がある。



●製麺機

機械式の製麺機が早くから導入され、自前の小麦粉を使って生うどんが作られてきた。現在でも、手動でうどんを打つことができる。



●水車大工の名前

水車を修復した大工の名前が柱に残っている。

高原水車の変遷

明治35年	1902	高原太吉	河部百太郎より水車及び建物購入
明治41年	1908	石油発動機購入	
大正08年	1919	水車大工石淵常吉(由佐)	水車新調
昭和12年	1937	木製水車取得(耐用年数10年)	
昭和19年	1944	水利組合と共に用水確保の嘆願を軍部に出す	
昭和42年	1967	水車大工吉田久吉(坂出市府中町)	水車新調
平成02年	1990	この頃、水車破損により稼働休止	
平成23年	2011	瀬戸内海歴史民俗資料館による調査始まる	
平成25年	2013	産業考古学会より「推薦産業遺産」に認定	
平成26年	2014	「高原水車友の会」設立	
平成28年	2016	文部科学省が「登録有形民俗文化財」に登録	
平成29年	2017	水車東側石垣水路修復(築後初の本格改修)	

●ガンド

石臼で挽かれた小麦粉を選別するため薄い絹布を張り、回転させるふるい。細かい粉は布を通して落下して製品となり、残ったものは搬送装置でロート上に運ばれ、再循環する。



●伝達装置

水車の回転を木製歯車で石臼やガンドに伝えたり、ベルトと天井の回転プーリーで精米、精麦、製粉機に伝えるようになっている。



●水輪(水車)

現存の水輪は、昭和42年に坂出市府中町の水車大工・吉田久吉氏が作り平成2年まで動いていた。直径4.8メートル、幅が60 cmの古松でできた胸掛け水車である。



●サバタ

水車の回転を調整する木製の2枚からなる水門。導水路を通ってきた水を、2枚をずらせることにより水量を調節した。

●石臼

石臼は円形の花崗岩でできている。石臼以外は木製の機械装置からなっている。



讃岐六条の 国登録有形民俗 文化財



水車場を支えた
道具たち

登録
水車1件
関連用具348点